

父親の顔が戻って来るまで

牧師 立石尚志



いつもグリニッチ便りをお読みくださり感謝します。庭には今年生まれたばかりの野うさぎが跳ね回り、ニューイングランドの春を飾るレンギョウ、あちこちに植わった水仙が次々と花を咲かせ、モクレンも桜も満開の今日この頃、何か楽しい、嬉しいことを分かち合いたいと思っていたところに、とんでもないニュースが飛び込んできました。

一件落着なのか？

皆さんも既にお聞き及びでしょうが、ニューイングランドの春の祭典、ボストンマラソンにおいて、ゴール付近で爆弾テロが起き、大勢の人が重体となり、死者も出ました。政府や軍施設に対するテロならまだしも、一般市民の楽しみでの事件であり、ことさらに凶悪さを感じます。犯人であったチェチェン出身の兄弟の兄の方は死亡、弟に対する警察挙げての捜索は功を奏し、捕まりました。犯人の検挙で、この事件についてはある意味で終わりが見えたかも知れませんが、果たしてこれで一件落着なのでしょう。

残念ながら、また一つ、社会の「目盛り」が動いてしまいました。今後このような事件の発生を防ぐためには、ボストンマラソンのみならず、少しでも人が集まるようなイベントでは全米どこでも「強制的荷物チェック」あるいは「リュックサック持込禁止」が必要になるでしょう。9・11を経験したNY周辺住民にとってはこのような厳重なチェックは既に当たり前になっていますが、安全のためには自由が制限されることは「常識」になりつつあります。

共通項は？…さらに深い問題は？

今回のテロ事件を含め、1999年のコロラド州コロンバイン高校乱射事件、バージニア工科大学乱射事件、今年のバットマン開幕日の映画館乱射事件、暮れのサンディーフック小学校乱射事件はいずれも比較的安全とされていた地域で起きた無差別犯罪であり、大きく報道され、政治家たちも動かざるを得ません。しかしながらこれらのセンセーショナルな事件に比べるとはるかに死傷者が多く、人々が目を背けている深刻な問題も存在しています。それはシカゴ等大都市の貧民層、特に若い黒人同士における殺人です。銃犯罪の大半はこのような地域で起きているのであり、政府が躍起になって通そうとしている銃規制法案等は全くこの問題の解決にならないとも言われています。

改めてこれらの凶悪犯罪を眺めてみた時、裕福な地域であるか貧困地域であるか、教育があるか無いかに関わらず、浮き彫りになって来る共通項があります。それは、犯罪者が「若い男性」であるということです。「年配の女性」が凶悪犯罪を犯すことは考えづらいだけでなく、アメリカに限って言えば男女の殺人犯罪の比は10対1、さらに年齢別に見た時、圧倒的多数は若者なのです。そして実は、世界中どこに行っても状況は似たりよったりなのです。

親の顔が見たい！？

ところで、若者が犯罪を犯したり、とんでもないことをしでかしたりした時、私たちは、よく「親の顔が見たい」と言いますが、なぜでしょうか。基本的な倫理・道徳教育はそもそも家庭で行われるべきであり、親の責任であるという暗黙の了解事項があるからです。そこで試しに上に挙

げたような凶悪事件を起こした青少年たちの「親の顔」を想像してみてください。手が付けられない息子におろおろする母親は何となく想像できますが、父親の顔は見えてくるでしょうか？ 答えは「否」ではないでしょうか。父親の顔を見ようとしてもそこに顔がないのです。

仮に父親がいたとしても実質的に不在であるなら同じことですし、実際、全米で最も殺人の多いシカゴを例にとると、貧困地域に於ける若い黒人たちの80%は非嫡出子であり、父親を知らずに育ちます。統計を見るならば父親不在の問題は火を見るより明らかです。父親不在の家庭で成長した若い男性が刑務所に入る率は両親がいる家庭に比べ、二倍です。自死を選ぶ若者の63%、問題行動を起こす子供の85%、高校を卒業しない子供の71%、少年院に入る子供の70%は皆、父親不在の家庭で育っています。さらに向学心のなさ、性行動の低年齢化、性同一性障害、麻薬の常用、衝動的怒り等の問題どれ一つとっても父親不在と明確な関連があります。また父親不在の空白を埋めるようにしてギャングの親分や、過激な思想を植え付ける宗教指導者、大学教授が暗躍するわけです。父親不在が社会にもたらす影響については現在多くの研究がなされており、その全てが現代アメリカの社会問題は全て「父親不在」と連動していると結論づけています。(参照ウェブは裏面)

問題の解決は？

問題が父親不在であるなら当然、父親が戻って来ることが問題解決になるわけですが、どうすれば妻子に向き合うことを避け、責任を嫌って逃げ出してしまっている父たちを本来の立場に戻すことができるのでしょうか。どうすれば責任感ある新しい父たちを訓練できるのでしょうか。

聖書が示している解決をご存知でしょうか。父親たちに研修を受けさせ、訓練することだ、と言っているのでしょうか。それらも重要ですが、もっと先に来なければならぬことがあるのです。**人は何よりも先ず、一人一人、天の「父」のもとに帰る必要があると聖書は教えているのです。**神は父親業を一度でも放棄したことはありません。むしろ人類が父なる神に従うことを嫌い、家出し、自ら「父親不在」の中で生きることを選んだのです。人は神の權威を認めず、自己中心に生きているからこそ、父親の職務を正しく悟ることも学ぶこともできず、誤った父親像が代々受け継がれるばかりか、父親業から逃げ出してしまふのです。

聖書に「立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われ、落ち着いて、信頼すれば、あなたがたは力を得る。」(イザヤ30:15)と書いてありますが、人が真の父である神に立ち返り、神から学び始める時に、父親としての責任を正しく悟り、自信をもって善悪を教え、威厳を保ちつつ優しさと暖かさで家族を支え導くという役割を果たせるように変えられて行くのです。その時、父親不在で涙を流して来た子供たちの心が回復に向かい始めるのです。神に立ち返る道は、神の独り子イエスが十字架で身代わりの死を遂げ、私たちの罪を全て洗い清めてくださったことで備えられています。今、その招きに応えようではありませんか。■



「神の栄光が現されるとき」 M.M.さん

(在米 25 年。グリニッチ教会の宣教協力者)

幼少期をヨーロッパで過ごした父の影響で私はカトリック教会で幼児洗礼を受けました。そのお陰で物心がついた時から全知全能の神の存在を疑ったことはありませんでしたが、自分の頑張りこそが成功の秘訣であるという日本人特有の美德が私と神との関係の壁となっていました。私は長い間、神について無知であり、神の愛とキリストにある救いを誤解し、過小評価していました。

2001 年の同時多発テロで私達家族は直接の影響はなかったものの経済的に大きな打撃を受けました。三人の子ども達は当時 4 歳、2 歳と新生児で、光熱費、時には食べ物にも事欠きました。私は苦しみ、傷つき、怒り、周りの全ての物や人々を責めました。神に助けを求め祈りましたが、私の努力は自分自身で問題を解決するためにもっと費やされていた。がんばれば、自己犠牲をすれば何とかかなると思っていたのです。夫との仲は陰悪になり、私は物を飲み込む事ができず今思えば拒食症の症状になり、状況はどんどん悪くなるばかりでした。肉体的にも経済的にも精神的にも霊的にもどん底の状態でした。

そんな頃、子どもが通っていた日本人補習校の廊下で K さんにばったり会いました。彼女が私の安否を気遣って手を取り祈ってくれました。そして、一冊の祈りの本をプレゼントしてくださいました。私は 30 章あるこの本を毎日一章ずつ読み、祈り、朝昼夜神に叫び求め、「祈りの力」を知りました。エレミヤ 33:3「わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示

す」の御言葉通り、主は御自身を私に現してくださったのです。NY という地で日本語での祈り会を与えて下さり、子供達に信仰を与え、親友とその家族を救いに導き、私に仕事も与えて下さる祝福を下さいました。

一カ月前、癌の疑いがあり手術をすることになりました。「恐れ」と戦う私をこの祈り会の姉妹達、母教会、グリニッチ教会の方々が祈りで支えてくれました。自分の力ではどうしようもない状況になった時、先が見えず何の保証も確信もない時、目に見えない神様のよき計画を信頼していくことは本当に難しいことでした。イエス様だけを見て湖の上に一步踏み出したペテロの勇氣と信頼が必要でした。「恐れ」は目の前の問題が神より大きくなった時に感じます。私達の神は、何よりも偉大で全能です。その確信を疑わせる敵が私達を「恐れ」させます。私は K さんがくださったイザヤ書 41 章 10 節「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」、13-14 節「あなたの神、主であるわたしが、あなたの右の手を強く握り、「恐れるな。わたしがあなたを助ける」と言っているのだから。恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしはあなたを助ける。——主の御告げ——あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者。」を何度も宣言し、神の右の手を握り続けました。この戦いの中で御言葉の約束に確信を持ち続ける事は、祈りや励ましに助けられることなしには成し得ませんでした。

イエス様は祈りに答えてくださり、結果は良性で手術も成功しました。信仰の「テスト」でした。今はこれからこの地上で神様の栄光がもっともって現されるために用いられたらと祈っているところです。ヘブル 11:1「信仰とはのぞんでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」全ての栄光が主に帰されますように。■

一面記事参照ウェブ <http://fatherhood.about.com/od/fathersrights/a/fatherless-children.htm>
<http://www.fatherhood.org/media/consequences-of-father-absence-statistics>
<http://news.yahoo.com/fatherless-chicago-warning-america-203015186.html>

■ 2013 年夏にかけての集会・行事予定 ■

※ 下記以外にも週の間に、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

- | | | |
|---|---|---|
| <p>【定例集会】</p> <p>★ 日曜礼拝 / 10:00~11:30
メッセージは託児室でモニターを通して聞く事ができます。
礼拝後 グループ会 / 12:15 まで
大人、子供それぞれのクラスに分かれます</p> <p>★ 祈禱会 / 水曜日 10:00~12:00</p> | <p>【各種集会】</p> <p>★ スタンフォード 聖書を読む会
隔週水曜 1:15pm 場所: 井上宅</p> <p>★ ハートフォード 聖書を読む会
隔週月曜午前
毎週木曜午前 場所はお問い合わせください</p> | <p>★ ハリソン 聖書を読む会
隔週火曜 10:00am 場所: ハリソン長老教会</p> <p>★ マウントキスコ 聖書を読む会
毎週水曜 8:00pm 場所: 平野宅</p> <p>★ メンズ・バイブル・フェローシップ
木曜日 8:00pm 場所: 教会図書室</p> |
|---|---|---|

- ウェルカム礼拝 4/28(日)、5/26(日)、6/30(日) 10:00~11:30pm
礼拝は初めて、キリスト教に関心ある方にとって入りやすい内容の礼拝です。毎月最後の日曜日に行っています。
- 生活・教養講座 5/25~6/29(毎週土曜日) 9:30am~11:30am
名前を改め、より生活に密着した内容も取り上げて参ります。特別ゲストの日もあります。ふるってご参加ください。
- 図書室を解放しています！
教会の蔵書を貸し出しています。絵本、小中学生のための本、信仰入門書、キリスト教文学、神学多数あります。
- 夏の子供キャンプ 8/12(月)~16(金)
今年も St. Paul Lutheran Church 主催の通いキャンプに合流します。教会キャンプは無料です。でも内容満載です！

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志
c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com
《問い合わせ》教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: church@jgclmi.com

